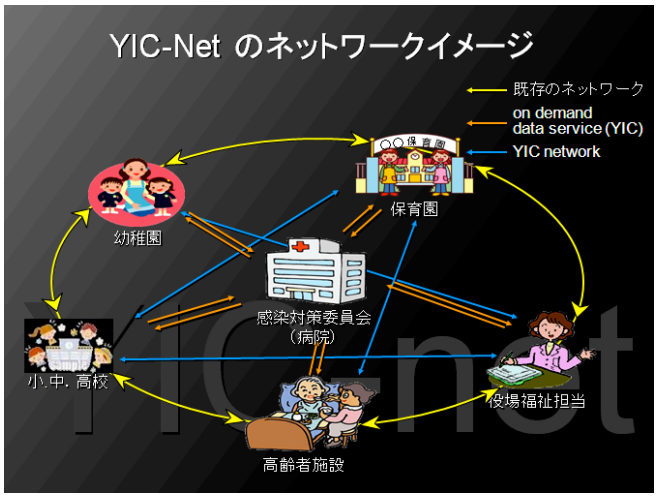
第27回日本環境感染学会に参加して

八雲総合病院　感染対策委員　　山田　光雄

　第27回日本環境感染学会総会が2012年2月3日(金)および4日(土)、福岡国際会議場および隣接の２会場で行われました。参加者５，０００名以上という規模、さらにシンポジウム、教育講演、演題などの多さに圧倒されながらも、各セクションに参加し、情報収集をしてきました。

中でも特にシンポジウム９〔感染対策地域支援ネットワーク〕で、我々の八雲町感染対策ネットワークで行われている地域の病-病連携や施設間連携と同じような報告発表、ディスカッションが行われました。
　加えて今年の４月には、診療報酬の改定があり、その加算基準が「感染対策の地域連携（病-病）をした場合算定される」との報告があり、多くの参加者からのどよめきと戸惑いの声が上がりました。
我がネットワークにとっては追い風であることには間違いなく、出席メンバーは皆“したり顔”でした。

　私たちの本番は第２日午後からで、琉球大学医学部附属病院手術部・感染対策室長久田友治先生に座長を務めていただき、『地域感染対策ネットワークにおける情報共有およびデータ分析ツールの有用性』についてポスターセッションをさせていただきました。



内容概略として・・・

八雲総合病院感染対策委員会では、地域での感染対策を行うためには、病院や老人施設と共に、保育園、幼稚園、学校、行政をも網羅する感染対策ネットワークが必要不可欠と考えました。

　我々は地域の感染対策を有効に実施するため、ITツール（八雲町情報政策室の全面協力：システム作成、管理等）を用いて、地域の感染対策に取り組むため、昨年７月より、北渡島地域の各施設に呼びかけを行い、１０月『地域感染対策ネットワーク（YIC-Net)』を立ち上げました。
加盟３町村３３施設の感染情報が、ネット環境下で一元化され為、リアルタイムで、さらに、グループウェアを用いることにより、双方向性を有したコンテンツとなっています。加入施設の職員や利用者、さらには、利用者の家族をも包括した感染対策を行う際に、有用な情報ツールが出来上がり、有効利用されています。

という内容で発表してきました。（自画自賛）

　琉球大学医学部附属病院手術部や名古屋大学医学部付属病院中央感染制御部、神奈川県立病院、川崎市立病院など多くの施設から、今回の私たちの取り組みに興味をもっていただき、多くの質問、助言、さらにはお褒めの言葉も頂きました。発表者ではなく、内容に対してですが（笑）

このような取り組みが先駆けとなり各地に広がる事を期待し、学会の報告とします。